

彩新クラブ綱領

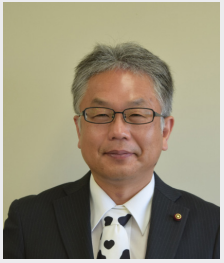
- 1 市民福祉の維持向上を図り、地域の均衡ある整備・発展に努める。
- 2 相互の自由闊達な議論を尊重し、議会の活性化に努める。
- 3 二代表制の下で議会機能が十分発揮できるよう、議会改革に努める。
- 4 公平・公正・公開の下で議員職務の遂行に努める。
- 5 地方自治の動向に対応し、常に研鑽を重ねて市民の信頼・付託に答えるよう努力する。

田島信吉



深谷市上原10
(583) 2764

村川徳浩
ミルクおやじ



深谷市東方2603
(572) 4228

川本公民館建設問題

川本地区では新しい公民館の建設場所をめぐり、現公民館敷地にするか、総合支所敷地にするかで意見の対立が起っています。

川本公民館建設委員会は平成25年8月に委員の投票（8対7）により、現公民館敷地を予定地として選定しました。ところが水防法の改正により、平成28年に安全性の基準が見直され、総合支所敷地が現公民館敷地より安全だ

という事実が国土交通省作成の洪水浸水想定区域図で示されました。その結果、安全な総合支所敷地に建設するべきだと主張していた皆さんが、深谷川本の文化施設と防災を考える会を立ち上げ活動を再開したため、一度正式に決まったことだから、現公民館敷地に

するべきだと主張する皆さんと対立が再燃しました。そのため公民館を所管する深谷市教育委員会は、地域を二分する問題であるため慎重に判断をする必要があるとして、267万8400円の費用を掛けて（株）八千代エンジニアリングに調査を依頼しました。

調査結果は、想定最大規模（概ね1000年に一度）の大雨が降ればどちらにも浸水する可能性があるとして、第3の場所を候補地とすべきという内容でした。

本当に千年に一度を基準にするのか？

ところがこの千年に一度という基準は非常にハードルが高く、これを正式に採用すると、現在建設中の市役所も建設不可能という事になってしまいま

す。八千代エンジニアリングは、総合支所なら50cm程度のかさ上げで基準をクリアできると現実的な対案を出しています。なのになぜ、市は無理をして第3の候補地を探す必要があるのでしょうか。教育委員会にこれは誰の判断かと質問したところ、名前は明かせないが専門家の先生だとしています。深谷市は、このように重大な判断を名前も公表できない人物に委ねるというのでしょうか。

公民館建設予定地 防災調査報告会

5月21日に川本公民館で『新川本公民館建設予定地防災調査報告会』が開催され、私は参加者の皆さんの許可を得て、オブザーバーとして参加しました。その説明会の最後に、川本公民館建設委員会は恫喝に始まり恫喝に終わったという発言が参加者の一人からありました。この時私が驚いたのは、このような発言があっても、教育委員

会はだれ一人として事実確認せず、下を向いてバツが悪そうにしていたという事です。私が関心を持っているのは、どこに公民館が建てられるかという事ではなく、教育委員会の不自然な対応です。不自然なことが起こるには、それなりの理由があるはずで、教育委員会の誰かが恫喝に屈してしまい、その事実を隠したいのか、それとも別の力が働いているのか分かりませんが、何も無ければこんな不自然な対応を取ることは考えられません。

おやじの質問

6月議会での一般質問

Q 教育長、教育部長が参加した報告会で『川本公民館建設委員会は恫喝に始まり恫喝に終わった』という発言が有った。なぜその場で事実確認をしなかったのか。

A 後日、職員に確認したが、恫喝は無かったと報告を受けている。

Q 本人ではなく、職員に確認したのはなぜか。

A 以前、川本公民館建設委員長に確認したが、恫喝は無かったとの答えがあったため必要ないと考える。

Q 川本公民館建設委員会の委員による評価は総合支所の方が上なのに、投票の結果は8対7の一票差で現公民館の跡地が上回っている。委員の意思が（恫喝に影響されずに）反映されたと考えているか。

A 市長に対して、正式な要望書が提出されたので委員の意思が反映されたと考えている。

Q 教育委員会は、恫喝は無かったとしているが、社会教育委員経験者の元委員が恫喝は有ったと勇気ある告発をした。第三者委員会を設けて調査を行うべきではないか。

A 当事者がどう考えるかが先であり調査は必要ないと考える。

Q 我々が恫喝の有無の調査を行う時には協力してもらえないか。

A 任意団体の活動について行政が関与するには、相当限度に理由がある場合に限られるため協力できない。

Q 総合支所の跡地だけでは公民館建設が出来ない訳があるのか。何らかの力が働いているのか。

A そういった事実は一切ない。

スマートフォンでQRコードを読み取れば、一般質問の録画配信にアクセスできます。



これでいいのか!? 深谷市教育委員会

なぜ恫喝があったと発言した本人から話を聞かないのでしょうか。発言したのは教育委員会が委嘱した元社会教育委員でもあります。教育委員会はその真偽を確かめる責任があるはずです。

恫喝に関する認識は人それぞれで、ある人にとっては恫喝であっても、他の人からすれば恫喝ではなかったかもしれませぬ。問題は、委員全員が自分の意思で投票できたかどうかということです。このような発言が有った以上、投票は8対7で公民館、全委員による総合評価は総合支所が上という不自然な結果を検証する必要があると私は考えます。極端な評価をすれば確かに逆転現象が起こる可能性もあるでしょう。

だからこそ利害関係のない第三者に調査を依頼してはどうかと提案したので、委員全員が自分の意思で投票したことが確認出来れば恫喝問題は解決です。

教育委員会は、川本の皆さんが納得する公民館を建設したいと言っていますが、この問題を解決しない限り、皆さんが納得する公民館の建設はあり得ません。実際に恫喝が有ったのか無かったのか、その場にいなかった私には判断できません。ただ川本公民館建設委員会でも不適切な発言が有ったことは容易に想像できます。今後、深谷市において恫喝が行われ、行政が歪められることがないように、そういった思いを込めて一般質問をしました。

この問題以外では、教育委員会を信頼しているだけに残念であるとともに不思議で仕方ありません。



原郷上野台線整備事業

57億円

皆さんは原郷上野台線整備事業（アンダーパス）をご存知ですか？上柴地区と国済寺地区を高崎線の下を掘って立体交差でつなぐ計画です。市はこれにより、交通の分散化、緊急車両などの通行ルートの増加、市内交通移動の円滑化、利便性の向上が図られるとしています。

この事業は当初、オーバーパス（陸橋）の計画でしたが、プライバシーや日照権の問題があることから、アンダーパスか平面交差に変更して欲しいという陳情を受け、平成23年1月に議員8人が委員として参加した都市計画審議会で正式にアンダーパスに変更されました。この時の説明ではアンダーパスの建設費20億円、オーバーパスの建設費10億円という事でした。その後、平成24年12月に開催された議員全員協議会では、アンダーパスの建設費は約48億円、さらに今年4月の議員全員協議会では約57億円と市から説明を受けています。いとも簡単に億単位の建設費増額が認められてしまうことや、東京オリンピックによる建設費の高騰を考えるとさらに増額されるのではないかと心配です。

問題だらけの計画

問題点① ほとんどの市民にとって何のメリットもなくアウトレットよりも巨額の税金を投入する事業であるにもかかわらず、市民に対し詳しい説明がされていない。

問題点② 当初20億円だった工事が約3倍の57億円に膨れ上がってしまったのに、見直しが行われていない。

問題点③ 徒歩や自転車利用者は、近くの踏切が使えなくなり不便になる。工事期間が非常に長い。

問題点④ 集中豪雨時に水没するなど、安全性に問題がある。

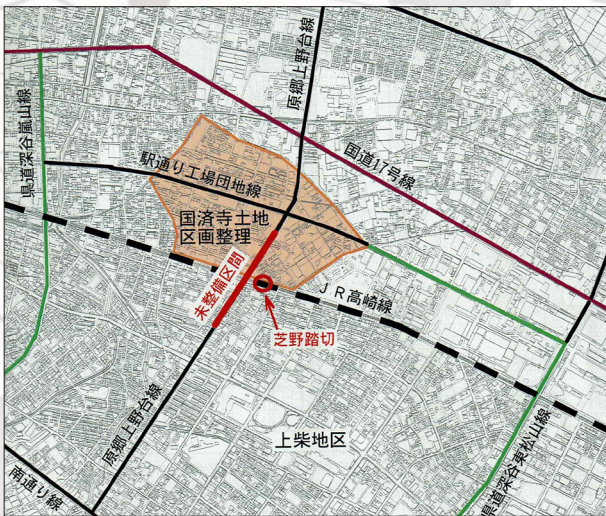
問題点⑤ 大雨が降った時にアンダーパスに溜まった雨水は、ポンプによって増水した唐沢川に配水される。

以上のような問題点がある事から、私は6月議会に提出された平成30年度深谷市一般会計補正予算（第一号）に対し議会最終日の採決で反対しました。反対討論も行いましたが、15対8の賛成多数でこの議案は可決されました。その結果、原郷上野台線整備事業の1億8400万円は今年度に執行される事となり、後戻りすることが困難な状況になりました。市の厳しい財政状況を理由に、様々な予算が切り詰められる中で、57億円もの巨額の予算を使うならもつと市民のために役立つことに使うべきです。

私の反対討論は、議会だよりの見開きページに掲載されています。

今は何もする必要は無い

平成9年3月に地元自治会から提出された陳情書は、オーバーパスをアンダーパスか平面交差に変更して欲しいという内容でした。踏切の新設は法律で認められていないため、アンダーパ



スを選択するしかないらしいのですが、現在使われている芝野踏切をそのまま使い続けることは可能です。現状で何か問題があるかといえば、脱輪や接触事故は他の踏切同様にあります。大きな事故は今までに起こっていません。今後、踏切で死亡事故が起これないとは言いきれませんが、近年多発する集中豪雨により、アンダーパスでの水没事故で亡くなった方がいるのも事実です。人口減少により交通量増加の可能性も少ないことや、大規模事業が目白押しな深谷市の財政状況を考えれば、少なくとも今はこの事業を進めるべきではありません。

消防ポンプ車の入札

談合の可能性はないのか？

昨年、深谷市は2台の消防ポンプ車を指名競争入札で（株）モリタから購入しました。どちらの車両も予定価格4600万円、落札額4590万円、落札率99.78%という結果になり、私は違和感を感じました。過去にさかのぼると、この10年間で消防ポンプ車の購入は7台で、そのいずれもが（株）モリタからの購入です。近隣消防本部の入札状況を調べると、行田は（株）長野ポンプ、児玉は日本機械工業、熊谷と秩父は、（株）モリタからの購入もあるものの、熊谷は（株）ネイチャー、秩父は埼玉消防機械とほぼ購入先が決まっている状況でした。

6月議会での一般質問

問 消防ポンプ車は（株）モリタが落札し続けているが、（株）モリタに有利な条件があるのか。

答 すべての業者が参加できるように仕様書は、公正・公平に作成している。

問 同一メーカーから購入が続いた場合、メンテナンス等で何か有利な点があるのか。

答 特にない。複数のメーカーからの購入であっても、メンテナンスに差はなく支障は何もない。

談合の有無を判断することは、非常に難しく、一地方議会での一般質問で解明できるような問題ではありませんが、こうして取り上げることが抑止力になると考え質問しました。

あとがき 税金がどう使われるかをチェックすることは、議員の重要な役割です。原郷上野台線整備事業の57億円は当初の計画が20億円だったことを考えると賛成できるものではありません。今回の川本公民館の安全基準を適用すると、市役所の建設は出来ません。行政がその時の都合で基準を変えていたのでは、市民の信頼は損なわれます。それ以前に、教育委員会は公民館に千年に一度の基準を適用するなら、二百年に一度の基準すら満たしていない川本中学校を安全な場所へ移設するべきです。